



- まちづくり・コミュニティ
- 町会・自治会
- 防犯・防災・みまもり
- 子ども
- 教育
- シニアライフ
- 健康
- スポーツ
- 芸術・文化・趣味
- 環境
- ふくしとサポート
- NPO・ボランティア
- 国際交流
- 男女共同参画
- 農業・商工業

ホーム > 市民レポーター > ~「竜馬がゆく」と司馬遼太郎(1)~

「ひばりが丘 なんぶ横丁-世代をつなぐ」が11月28日(日)午前10時から南部地域センター2階講習室で行われました。その中の講話「竜馬がゆくと司馬遼太郎」の要約をお届けします。

11月28日(日)午前10:00~ 南部地域センター

唱歌でつづる大正・昭和
午前10:00~12:00
2階 講習室にて
ご一緒に歌いましょう♪

囲碁コーナー
午前10:00~
1階 囲碁スペースにて
初心者・子ども歓迎

講話 浅羽芳久氏
テーマ「竜馬がゆく」と司馬遼太郎
午後1:30~3:00
1階 老人集會室にて

図書館オススメ!
坂本龍馬の本の紹介
龍馬検定にもチャレンジしてね!

地場産 野菜の販売
午前10:00~12:00
入口 エントランスにて

主催:南部地域センター運営委員会 共催:東久留米市南部地域センター 協力:ひばりが丘図書館 (NPO 法人ワークーズコープ)

今年NHKの大河ドラマで坂本竜馬が取り上げられたことなどから、竜馬ブームの年であるようです。きょうはその竜馬のことについてお話しいたします。竜馬は幕末に薩摩と長州の同盟を結びつけ、さらに大政奉還に大きな功績があったことで知られています。まず、竜馬が生まれた頃のことから話を進めてゆきたいと思います。竜馬は天保六年、西暦で1835年に土佐に生まれました。竜馬の生まれた家は豊かな商家でしたが、祖父の代に武士の身分の郷土株を買い、武士になりました。実家は商家、武家の二つの家になり竜馬は武家の方の家に生まれました。なぜ、坂本家は武士の身分を手に入れたのでしょうか。豊かな商家(質屋)ではありましたが武士と商人では大きな違いがあり、いくらお金があっても武士には頭の上がない時代であったのです。

江戸時代は身分制度の時代であり、武士階級の中でも大きな違いがありました。身分制度はどの藩でもありましたが、特に土佐藩では江戸時代の初めから、武士の間に「上士」と「下士」という身分の区別が設けられ役職から生活の隅々まで明らかな差がつけられました。坂本家が手に入れた郷土は「下士」の中の最高位で苗字帯刀や騎馬も許される身分でもありました。

土佐は長く長宗我部氏が治めていましたが、千六百年の関ヶ原の戦いで石田三成の西軍についたために戦後、所領を没収され改易となりました。山内一豊はその後土佐の領主になりましたが、一領具足(いちりょうぐそく)と呼ばれた武士を下士に組み入れたため多くの騒動が起きました。彼らは特殊な武士で知行地(自分の所領)を持たないで田畑を耕作して租税を免除されていました。土佐で一萬五千人がいたとされます。

幕末には上士と下士の対立を激化させる事件が起きました。文久三年三月四日夜、高知城西の井口村での刃傷事件です。上士二人が泥酔して帰宅途中で下士の武士と衝突し、上士が下士を惨殺しました。その後、殺害された下士の武士の兄が駆けつけ上士の武士二人を殺害してしまいました。この事件の裁きで上士は父親の謹慎で済み、下士は家禄没収という不公平なもので終わっています。

成長した竜馬は嘉永六年の十九歳の時に江戸に行き剣術修行のため千葉道場に入門しました。竜馬は二男であったため、後々土佐で自立し剣術道場を開くために江戸に行ったとも言われています。

竜馬が千葉道場に入門したこの年は幕末動乱の幕開けの年でもありました。六月に浦賀沖にアメリカのペリーがさらに七月にはロシアのプチャーチンがやって来て、開国、尊王攘夷の動きが始まりました。翌年にペリーは再度やってきて、日米和親条約を結び幕府は開国へと動いてゆきます。尊王攘夷派と開国派の抗争は一段と激しさを増すことになりました。開国を押し進めるために安政の大獄が井伊直弼によってなされますが、直弼も桜田門外の変で暗殺されてしまいます。

こうした時代背景の中で坂本竜馬が歴史の中に登場してきます。

竜馬は安政三年に再び江戸に行き千葉兵法目録を受け剣術の免許皆伝になり、さらに文久元年(1861)には武市半平太の土佐勤皇党に加わりました。翌年の文久二年には土佐藩を脱藩して、後の竜馬の行動の原点ともなる人たちと遭遇します。まず、勝海舟です。海舟は安政元年に日米和親条約締結の際に咸臨丸でアメリカに行き新しい国を見て帰国していたのです。竜馬は海舟から「幕府よりも一つのレベルの高い国家思想」の考えを教えられました。

次に影響を受けたのは越前の松平春嶽、横井小楠の二人に会ったことです。この時、竜馬は土佐藩を脱藩した一浪士でしたが、春嶽に面談して海軍操練所のための数千両の金を借りることに成功します。一浪士が藩主に会うことは叶わない時代に竜馬はこうした交渉術を身につけたのです。横井小楠は肥後(熊本)藩の儒学者でしたが、この時は春嶽の招請で越前におり、竜馬は小楠から後の「船中八策」や「新政府綱領八策」の新しい国づくり元となる考えを身につけました。

(次回に続く)

市民記者 浅羽芳久(南町在住)